

1 「インクルーシブな万博運営」に関する指標

①人権デュー・ディリジェンス
(人権 DD)を実施する初の万博

大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」が実現されるために、万博に関わる一人ひとりの人権が尊重される必要があることを認識し、人権尊重の取組として人権 DD を実施する。

(1)人権への負の影響(リスク)の特定(万博運営において可能性のある人権侵害を特定)	(2)人権に関する負の影響の予防・軽減(人権侵害が起らない仕組みづくり)
・負の影響を受ける可能性がある人(ライツホルダー)を抽出し 持続可能性有識者委員会、人権WGなどで議論し、特定	・ESMSの構築・運用を図り、ISO20121認証を取得 ・博覧会協会各部署向けアンケートによる意識醸成 ・ユニバーサルデザイン/サービス・ガイドラインの適切な運用 ・持続可能性に配慮した調達コードの適切な運用 ・人権に関する職員研修や、外部講演等を通じた発信
(4)情報提供(開示)(協会が人権DDにどう取り組んだか公表)	(3)チェック(評価)(仕様がしっかりできているか確認)
・調達コード(通報受付、モニタリング)実施結果 ・持続可能性有識者委員会(議事録公表) ・持続可能性行動計画(公表、意見募集)など	・ESMSの継続的な運用 ・調達コードの運用評価(通報受付、モニタリング) ・総合コンタクトセンターによる通報受付と対応 ・人権WG、持続可能性有識者委員会における評価

②ユニバーサルデザイン・ユニバーサルサービス
ガイドラインに基づいて運営する初の万博

原則として、会場内のすべての建築物において国の「望ましいレベル」以上のユニバーサルデザインを目指す。さらに、万博としては初めてユニバーサルサービスについて独立したガイドラインを定め、誰もが楽しいひと時を過ごすことができる万博を目指す。

2 「カーボンニュートラル実現」に関する指標

低炭素な会場から
グリーンチャレンジを世界へ

cope1,2 相当(会期中の会場内での排出等)カーボンニュートラル達成を目指す。Scope3 相当の排出量の削減。その他、会場内外での脱炭素行動の推進(EXPO グリーンチャレンジ)を通じて、万博のレガシーづくりにつなげる。

Scope	排出源	GHG排出量	(t-CO ₂ e)
1	会場内の施設で使用する燃料	4,979	
	会場内輸送で使用する燃料	162	
	会場内、会場外の施設におけるエアコン稼働によるフロン漏洩	72	
2	会場内、会場外の施設で使用する電力	31,080	
	会場内輸送で使用する電力	9	
	博覧会協会事務所・会場外駐車場で使用する電力	2,527	
	博覧会協会事務所(咲洲・ATC)で消費する熱	302	
		Scope 1合計: 5,213(t-CO ₂ e) Scope 2合計: 33,919(t-CO ₂ e) Scope 1, 2合計: 39,133(t-CO ₂ e)	

3 「サーキュラーエコノミー」に関する指標

リデュース・リユース、
2R でごみ減量

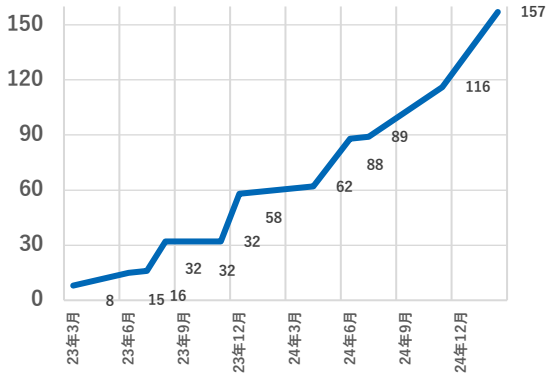
会期中及び会期前後も含めたサーキュラーエコノミー実現に向けて、会場運営に伴って発生する廃棄物については、リデュース・リユースの徹底を図ることで目標を上回る排出抑制を目指す。また、会場内の分別・再分別を徹底し、分別可能物については100%のリサイクルを目指す。



4 「地域産業への活性化寄与」に関する指標

中小企業、スタートアップの
発信機会、新たな共創
(co-create) を創出

中小企業の参画数を増やしていく。



5 「一人一人がつながるコミュニティ形成」に関する指標

未来社会の実現に向けた
新たな「共創」を
生み出すことを目指す。

TEAM EXPO 2025 プログラムを実施し、新たな「共創チャレンジ」を生み出し・育てていく場を提供する。

